

「主イエス、洗礼を受けられる」

2023年01月11日

さて、民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のよう姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」という声が、天から聞こえた。（ルカ福音書 3：21～22）

洗礼は罪を悔い改めて赦しを受けることである。洗礼式は、罪にまみれた体を水の中に沈めて罪に死に、そこから、引き上げられて赦しの新生に与る儀式である。この洗礼式は、異教徒がユダヤ教に改宗する時に行われた。主イエスは、異教徒をユダヤ教に改宗させようと熱心に伝道するファリサイ派の人々を、「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは、改宗者を一人つくろうとして、海や陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より倍も悪いゲヘナの子にしてしまう（マタイ23：15）」と非難している。「自分より倍も悪い」と言うことは、律法に凝り固まって、不自由な人になるということであろう。パウロの宣教は、各地に建てられたシナゴグ（ユダヤ教の会堂）に行って、福音を解き明かすことから始めている。そのシナゴグには、異教徒からユダヤ教に改宗した人々がいて、ユダヤ教徒よりも、彼らの方がパウロの語る福音を受け入れたと記している。唯一の創造主で、全能で、人格的な愛を注ぐ神は、異邦人には魅力ある神で、改宗者がかなりいたらしい。彼らが改宗する時に、洗礼式をした。ユダヤ教徒は、アブラハムを父祖としていたので信仰は当たり前で、今更、悔い改めの洗礼は必要ないとしていた。ところが、ヨハネは信仰には既得権などはないと、ユダヤ教徒にも洗礼を授けた。彼の説教は迫力があり、人の心を惹きつけ、人々は感動して、ヨハネから洗礼を受けた。このヨハネの洗礼運動は全イスラエルを揺り動かす大きな運動になっていった。

主イエスもヨハネから洗礼を受けられた。罪の赦しの洗礼を受けられたのであろうか。ヘブライ書4章15節に「この大祭司は私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪は犯されなかったが、あらゆる点で同じように試練に遭われたのです」と、主イエスは罪を犯さなかったと書いている。ヘブライ書の著者は、主イエスは聖なる大祭司であるとの神学を展開しているので、「罪は犯さなかった」と書いている訳である。主イエスも洗礼を受けて、人間と同じようになられたのではないか。ただ、主イエスの場合、決定的に違うことが起こった。「イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のような姿でイエスの上に降って来た。」聖霊が目に見えるように、降って来るのが見えた。そして「『あなたは私の愛する子、私の心に敵う者』という声が、天から聞こえた。」

著者ルカは、主イエスの洗礼において、聖霊降臨と天からの声があったと書くことが目的であった。天からの声は、詩編の「あなたは私の子。私は今日、あなたを生んだ（詩編2章7節c）」からの引用で、王の即位の時に与えられた神からの祝福の言葉である。この言葉から、主イエスは神の子、神の御心に適う者として位置付けている。

史的イエスは神の子としての意識があったかについては議論が分かれるが、マルコ、マタイ、ルカの共観福音書は全て、同じ形式で、主イエスの洗礼を描いている。これは、福音書著者たちのキリスト告白を著したもので、史的イエスとは違うものがあって当然である。著者ルカは、イエスは神の子で、神の御心を現わす方であると信じ、その方がどのような言動で、人を救う福音を現わしたかを描き出そうとしている。史的イエスの実像を問いながら、告白されたキリストの霊的内実を受け止めることが求道である。